



新年のご挨拶

徳島県知事 飯泉嘉門

明けましておめでとうございます。

公益社団法人徳島県宅地建物取引業協会の皆様におかれましては、輝かしい新年を健やかにお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

木村会長をはじめ、貴協会の皆様におかれましては、日頃から、良質な住宅・宅地の供給に多大な尽力を頂くとともに、本県の住宅・建築行政はもとより、県政各般にわたり格別のご理解とご協力を賜っておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

さて昨年は、悲願の「本四高速の全国共通料金化」や「四国霊場開創1200年」をはじめ多彩な周年行事など、本県においては、まさに「エポックメイクの年」となる一方、4月の消費税増税による景気の腰折れが懸念される中、その対策として、市町村や商工団体と連携し、県下全域で10%のプレミアム付き「地域商品券」を発行し、県内経済への当面の影響を最小限に食い止められました。

また、「徳島ヴォルティスの四国初のJ1参戦」や「徳島インディゴソックスの独立リーグ日本一」、皇太子殿下のご臨席の下、緑を守り育てる気運を全国へ発信した「みどりの愛護のつどい」など、県内が活気と賑わいに満ちた一年となったものの、「8月豪雨災害」や県西部を襲った12月の大豪雪など、自然の脅威とあらゆる災害に備える対策の重要性を、改めて実感した年でもありました。

このため、台風11・12号といった複合災害への「対応」として、全国初となる「生活再建特別支援制度」を創設し、その地に「住み続ける気力」を支援するとともに、今後の「備え」として、南海トラフ巨大地震に対する「震災対策基金（総額50億円）」の対象を、台風や豪雨などによる「大規模災害」にまで拡大するなど、「安全安心・実感とくしま」も加速致しました。

こうした中、貴協会の皆様には、既に指定しております「特定活断層調査区域」や「津波災害警

戒区域」において、土地や建物を取引する際の「土地利用の制限等」について消費者に対する説明をして頂くなど、日々、制度周知に努めて頂き、県民の皆様の「暮らしの安全・安心」確保に多大な尽力を賜っておりますことに、改めて深く感謝申し上げます。

さて、今年の干支は「乙未（きのと・ひつじ）」。

強い外圧により屈曲した草木の芽を表す「乙」は、何物にも屈しない「極めて強い意志」を意味し、枝葉の繁茂を表す「未」は、剪定し、「通風採光を図る」ことの必要性を暗示しています。そこで、乙未の年は、「いかなる外圧にも屈することなく、新たなステージに向け改革創造の道を切り拓いていく年」とされます。

本年は、本四高速と徳島自動車道の直結、四国横断自動車道と徳島阿波おどり空港が結ばれるなど、本県の「陸・海・空」の交通体系が大きな進化を遂げる「幕開けの年」となります。そこで、エポックメイクの年であった昨年の成果を土台として、さらなる県勢発展へと繋げるべく、「一步先の未来」を引き寄せる次元を超えた施策展開を図って参ります。

また、「地方創生」に向けた国の動きが本格化する中、昨年策定した県の共通コンセプト「vs東京」に込めた「東京一極集中の打破」への強い想いを具現化すべく、「課題解決先進県・徳島」として、「地方創生」ひいては「日本創生」へ繋がる取組みを創造・発信し、「一步先の未来」を県民の皆様と共に歩いて行けるよう、「創造的実行力」を発揮し、全力で取り組んで参りますので、本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

結びになりますが、本年が公益社団法人徳島県宅地建物取引業協会の皆様にとって実り多き年となりますことを、心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。